

英語多読を始めてみませんか？

1. 英語多読とは

ひとことと言うと、「やさしい英語の本を、たくさん読む」ことです。ほとんど文字のない絵本から始めて、辞書を引かなくても楽しめるようなやさしい本をたくさん読むことで、日本語に翻訳しない読み方が身に付きます。自分でも気づかないくらい少しずつレベルを上げていくと、いつの間にか大人向けのペーパーバックも読めるようになります。

大事なのは、「英語の勉強」ではなく、趣味や遊びの感覚で、「楽しみながら」読むことです。

2. 英語多読のコツ

英文を見たとき、ついつい日本語に訳して読んでいる自分に気づいたことはありませんか？多くの方は、学校の英語の授業で習った通り、わからない単語は一つ一つ辞書で引き、文法を考えるクセがついています。これでは読書を楽しむことはできません。

そこで、次の『多読三原則』を守って読むようにします。

- 1 辞書は引かない
- 2 わからないところは飛ばす
- 3 つまらなくなったらやめる

いい加減すぎて、慣れないうちは耐えられないかもしれません。

ですが、英語で物語の世界を楽しむためには、とても重要なことです。こどもは、「科学特捜隊」の意味がわからなくても、ウルトラマンを楽しめます。同じように、わからないところは飛ばして楽しみましょう。

途中で内容がわからなくなってしまうたり、つまらなかつたりしたときは、その本のレベルや内容が自分に合っていないのかもしれませんが、思い切ってやめてしまい、別の本を手に取りましょう。そのために田原市図書館の英語多読コーナーには、様々な本を取り揃えています。

3. 本のレベルを知るには

英語多読を推進しているSSS英語多読研究会では、本の読みやすさを評価する共通の基準を設けています。それが『**YL = 読みやすさレベル**』です。これは実際の読者の意見を参考にして、作品ごとにつけられた「本の読みやすさ」を表す数値です。0.0～9.9の数値で表され、数値が小さいほど読みやすいと感じる人が多いという意味です。田原市図書館の英語多読資料には、バーコードの上にYLの書かれたシールが貼ってあります。

レベルの低い本を読み進めるうちにやさしすぎてつまらない、物足りないと感じるようになったら、今よりも少しだけ難しいレベルの本を試してみましょう。こうしていくつかのレベルを試してみて、自分に合ったレベルを見つけてください。



4. 英語多読用資料

田原市図書館の英語多読コーナーには、主に以下のシリーズがあります。

シリーズ名	略字	Y L	冊数 (内 CD 付)
Oxford Reading Tree	ORT	0.0~1.0	472 冊
Macmillan Readers	MMR	0.8~4.5	152 冊 (90 冊)
Cambridge English Readers	CER	1.2~6.0	93 冊 (93 冊)
I Can Read Books	ICR	0.3~2.8	177 冊 (5 冊)
Penguin Readers	PGR	0.8~5.0	133 冊 (63 冊)
Oxford Bookworms Library	OBW	0.8~2.2	95 冊
MAGIC TREE HOUSE	MTH	2.5	42 冊
RAINBOW MAGIC	RAM	2.0	91 冊

平成 27 年 2 月現在

5. 多読の進め方

最初は、最もやさしい **Oxford Reading Tree (ORT)** から始めましょう。Stage1 の Y L 0.0 の本は、文字はタイトルだけで、内容はすべて絵のみのため、単語の意味がわからなくても大丈夫です。英語を日本語に翻訳して理解している方は、TOEIC900 点台であっても、ここから始めましょう。英語を英語のまま理解する感覚が身につきます。

ORT を読み終わったら、**Macmillan Readers (MMR)** や **Cambridge English Readers (CER)** など、英語学習者向けに語彙、



文法、文の長さを制限して書かれた本を、やさしいものから順に読みましょう。また、**I can read books (ICR)** などのネイティブ向けに書かれた児童書を読んで、英語読書を楽しみましょう。

6. 多聴・シャドーイング

田原市図書館の多読資料には、CD が付いているものがたくさんあります。リスニング力や、スピーキング力を上げるには、CD を使った『多聴』『シャドーイング』が有効です。

『多聴』は音を聞くだけでもいいですし、本を読みながら聞くことでより作品を楽しむことができます。多読と同じように、好きなものを、わかるところだけに注目して聞いていきましょう。

『シャドーイング』は英語を聞いて、その音をそのまま真似して声に出して言う方法です。一つの文が終わってから繰り返すのではなく、聞こえたとたんすぐに口に出すようにします。ポイントは、英語の意味や単語のつづりを考えずに、とにかく聞こえたままの音をまねすることです。

7. めざせ 100 万語

田原市図書館の多読資料には、語数が表示してあります。英語多読は、『100 万語英語多読』と言われることもあり、100 万語を一区切りとして、たくさんの本を読んでいきます。読書記録をつけていくと、多読を続ける励みになります。Y L 3.0 までで 100 万語読むのが理想的です。そこまで到達できれば、あとは自分で読むべき本を選び、英語読書を楽しむことができるようになるでしょう。

参考資料：「多読・多聴最強ガイド／学習研究社」
SSS 英語学習法【<http://www.seg.co.jp/ss/>】

